

京町家奥庭路地コミュニティ

京都の町内は道を境界線とせず、通りに面した横並びの向かい合う家々で構成されていました。通りや狭い路地は、子供たちの格好の遊び場であり、職住が共存する町家では、商いをしながら子供たちの様子を見守り、家族の枠を超えまわりの環境を作り出していました。



コンセプト

現代の京都の通りは、車の発展で、子供たちが通りや路地で遊ぶことはなくなりました。町内で子供たちを見守るといふ環境から、各家庭の中だけで子供たちを見る姿に移り変わり、様々な問題が近年では取り上げられています。昔のような近所と子育てを再生できないかと願い、京都の町家の各家の奥庭を一つにつなげて、昔、路地でつながっていたようにひとつのコミュニティを提案します。



誰かしらいつもいてくれる

近所と子育て

各家の奥庭を一つにつなげ路地で結びます。子供達は自由に行き交うことができ、子供の視線がとおりやすい町家ではどこからでも子供達を見守れます。路地は縁側へつながり、自然なコミュニケーションを生みます。

奥庭がつながる



車が通らないから、思う存分遊べる

